



古河混成団長の号音で競技会の幕を開ける



部隊の誇りをかけて奮闘する選手達

平成二十三年度団持続走競技会

中部方面混成団(団長 古河克樹一佐)は、九月二十九日(日)に、古河野演習場において平成二十三年度団持続走競技会を実施した。競技は昨年と同様に軽武装での個人走で実施し、各部隊代表選手は秋晴れの中、高低差約四十mのあいば野演習場内五kmコースを部隊の誇りをかけて全力で疾走した。競技会は、第一〇九教育大隊が日頃の成果を遺憾なく発揮し、昨年準優勝の雪辱を果たして見事優勝した。



編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

TEL077-523-0034

成績

◆団体の部

優勝

第一〇九教育大隊

準優勝

第二一〇教育大隊

◆個人表彰(上位十名)

一位

二曹 片田 堅 (第一〇九教育大隊)

二位

二曹 中村 太一 (第四陸曹教育隊)

三位

二曹 茂山 和生 (第一〇九教育大隊)

四位

三曹 中塚 寿幸 (第一〇九教育大隊)

五位

三曹 尾崎 祐介 (第一〇九教育大隊)

六位

三曹 久保 良平 (第一〇九教育大隊)

七位

三曹 柴野 浩治 (第四十七普通科連隊)

八位

三曹 丸本 浩 (第四十七普通科連隊)

九位

二曹 笥満 (第四十七普通科連隊)

十位

二曹 堀内 亮 (第一〇九教育大隊)

◆個人表彰(敢闘賞)

二十九歳以下

三曹 中山 幸二 (第一〇九教育大隊)

三十歳～三十四歳

二曹 遠藤 夏雄 (第一〇九教育大隊)

三十五歳～三十九歳

二曹 瀧本 浩一 (第一〇九教育大隊)

四十歳～四十四歳

一曹 泉田 秀利 (第一〇九教育大隊)

四十五歳～四十九歳

曹長 糸賀 司 (第四十七普通科連隊)

五十歳以上

曹長 社 德行 (第四十七普通科連隊)

女性の部

二曹 三嶋 綾 (第一〇九教育大隊)



見事優勝を勝ち取った第109教育大隊の隊員

新部隊長紹介

第四十七普通科連隊長 有浦 隆一 佐



平成二十三年八月一日付で、第四十七普通科連隊長に有浦一佐が着任した。

プロフィール

- 生年月日 昭和三十三年二月二十四日
- 出身地 福岡県
- 主要勤務歴
 - 幹部候補生学校区隊長(前川原)
 - 富士学校戦術教官(富士)
 - 第十九普通科連隊中隊長(福岡)
 - 湯布院駐屯地業務隊長(湯布院)
 - 第一〇一後方支援連隊副連隊長(那覇)
 - 西部方面総監部厚生課長(健軍)
- 趣味 ツーリング・スキューバダイビング
- 部隊長要望事項 共に練磨

第一〇九教育大隊長 猪股 倫夫 二 佐



平成二十三年八月一日付で、第一〇九教育大隊長に猪股二佐が着任した。

プロフィール

- 生年月日 昭和三十五年三月八日
- 出身地 石川県
- 主要勤務歴
 - 第十七普通科連隊中隊長(山口)
 - 第三師団司令部第三部防衛班長(千僧)
 - 第三十六普通科連隊第三科長(伊丹)
 - 山梨地方協力本部募集課長(山梨)
 - 中央即応連隊副連隊長(宇都宮)
 - 久居駐屯地業務隊長(久居)
- 趣味 神社仏閣巡り
- 部隊長要望事項 明るく、元気に、前向きに

谷川一佐 離任



谷川拓美一佐は、第四十七普通科連隊長としての二年四ヶ月間の勤務を終え、平成二十三年八月一日付で第四師団司令部付となり、平成二十三年十一月二日をもって定年退官される。

西野二佐 離任



西野強二佐は、第一〇九教育大隊長としての一年間の勤務を終え、平成二十三年八月一日付で中部方面混成団本部付となり、平成二十三年十二月三日付をもって定年退官される。

びわ湖大花火大会で 駐屯地を一般開放

大津駐屯地(司令 古河克樹一佐)は、平成二十三年八月八日に、びわ湖大花火大会に合わせて、駐屯地を一般開放した。駐屯地はびわ湖沿いに位置し、絶好の見物スポットとなっており、毎年びわ湖大花火大会に合わせて、駐屯地を一般開放している。今年も十八時三十分の駐屯地開放と同時に二五四人の一般市民が駐屯地を訪れ、次々に打ち上げられる花火とびわ湖特有の湖面に映る花火をそれぞれ楽しんだ。



駐屯地から眺める湖面の花火が絶景

団本部家族支援行事

中部方面混成団本部は、平成二十三年九月十日に家族支援行事を実施した。当日は、台風十二号が嘘のように好天に恵まれ、びわ湖の畔にある駐屯地ということもあり、中部方面混成団友の会長のご配慮で台船を借りての湖上での実施となった。

隊員と家族は、バーベキューやマリンスポーツを残暑の日差しの中で大いに楽しんだ。

家族支援を通じて、自衛隊に対する一層の理解と協力を得るとともに、家族間の相互連携を併せて図る事が出来た。

富士総合火力演習見学支援

中部方面混成団及び大津駐屯地は、平成二十三年八月二十四日から二十五日にかけて、中部方面混成団友の会並びに大津駐屯地協力会等二十四名を、平成二十三年度富士総合火力演習見学に引率案内した。

当日は、生憎の雨となったが例年通り前段演習（陸上自衛隊の主要装備品の紹介）と後段演習（攻撃の場を通じた諸職種協同の戦闘様相の展示）の演習プログラムで実施された。

見学者は、次々と発射される自衛隊主要装備品の実弾射撃にとっても感動していた。



雨天の中、大火力を発揮



びわ湖の湖上でバーベキューを楽しむ

隊員投稿

「井の中の蛙大海を知らず」
第四陸曹教育隊
三等陸曹 岩口 幸成

私は、七月十七日に滋賀県大津市の皇子山総合運動公園陸上競技場で実施された第七十七回滋賀県陸上競技選手権大会第六十六回国民体育大会選手権選考会での種目「一五〇〇m走」に参加しました。

大津駐屯地陸上部に所属している私は先輩隊員に「近々大会があるので参加してみないか？」と誘われましたが、駐屯地陸上部に所属して、初めての大会参加であり、また、ほとんど練習もしていなかったので戸惑いました。「楽しむつもりで参加すればいい。」と言われ、その言葉に半ば興味本位で、また、学生の頃陸上部で当時は活躍していたという安易な気持ちで参加することにしました。



実弾射撃に感動する参加者



大会当日、会場に着いての第一印象は、「これは来るところを間違えた。」でした。会場では既に地元実業団や、大学、高校の選手が練習をしており、その練習風景を見ただけで、「この大会に参加する選手の情熱と自分の「楽しむつもりで参加」という意識との大きな違いを感じるとともに、その雰囲気は圧倒されました。いざ競技に臨むとやはりその差は歴然としており散々たる結果でした。しかし、走っている間は、最後まで自分のベストを尽くしており、走り終えてみると充実感を覚えていました。

今回、初めてこのような部外大会に参加して現在の私はまさに「井の中の蛙」であったと痛感しました。今までは「昔取った杵柄」から「走る」となれば何とかなると思いつき、日々努力の必要性を忘れていました。今、今回部外大会を通じて「大海」を知ることができ、目標意識を堅持して挑戦し続けることの重要性を感じるよい機会でもありました。

大会の帰りに駐屯地陸上部先輩から、「年末にあるハーフマラソンに出場してみないか？」と声を掛けられ、ふたつ返事で「出場します。」と答えました。早速新しい目標ができ、「努力は決して裏切らない。」を心の支えとし、明日から次の目標に向け厳しい練習メニューを組み練成していきたいと思えます。

第四十七普通科連隊



◆第一次連隊野営訓練で

各種実弾射撃を実施

第四十七普通科連隊（連隊長 有浦隆一佐）は、八月二十八日から九月三日の間、あいば野演習場において平成二十三年度第一次連隊野営訓練を実施した。

本訓練には三三七名（常備自衛官一〇九名、即応予備自衛官二二名、支援部人狙撃銃射撃、〇一式軽対戦車誘導弾射撃、軽装甲機動車（LAV）発射発煙弾射撃、七〇式地雷原爆破装置射撃、一〇ミリ携帯対戦車弾（LAM）射撃及び五、五六mm機関銃MINIMI射撃）及び即応予備自衛官昇進時訓練を実施した。

本野営において、部隊及び各隊員の射撃練度向上、小銃小隊競技会を通じて部隊の団結及び帰属意識の高揚を図ることができた。

一日には、一一〇ミリ携帯対戦車弾・五、五六mm機関銃MINIMIの両射撃の総合点をもって各普通科中隊小銃小隊及び本管中隊情報小隊の計十小隊による小銃小隊射撃競技会を実施し、第三中隊が昨年度に引き続き見事二連覇を達成した。また、二日には昇進時訓練未実施の即応予備自衛官九名に対し、「集結地における外哨長の行動」について演練し、所望の成果を収め終了した。



01式軽対戦車誘導弾射撃



軽装甲機動車（LAV）による発煙弾射撃



狙撃銃での実弾射撃

第四陸曹教育隊



◆教育隊創隊五十七周年

記念行事



式典で記念写真

第四陸曹教育隊（隊長 鈴木精治一佐）は、平成二十三年六月二十五日、教育隊創隊五十七周年記念行事を大津駐屯地及びびわ湖船上において実施した。

当初、駐屯地において、第四陸曹教育隊友の会会員のご臨席のもと記念式典を挙行了。

式典において、友の会会長山本進一様及び平田晃子様、感謝状を贈呈した。

また、来賓からは、今般の東日本大震災における自衛隊の献身的な活躍が、国民から自衛隊に対する更なる期待と今までの以上の信頼感を得ていることを紹介され、隊長以下基幹隊員一同、陸上自衛隊の骨幹を担う陸曹教育を担当する隊員としての崇高な使命を改めて自覚した。

その後、場所を琵琶湖船上（遊覧船「ビアンカ」）に移して、第四陸曹教育隊友の会主催で「感謝の会」が行われた。「感謝の会」には、第四陸曹教育隊友の会会員二十八名を始め、基幹隊員とその家族一六〇名が参加し、家族間相互の交流及び関係部外団体との意見交換等が盛大に行われた。



遊覧船「ビアンカ」での感謝の会

第一〇九教育大隊

◆夏休みちびっこ大会支援

第一〇九教育大隊（前大隊長 西野強二佐）は、平成二十三年七月三十日から三十一日にかけて、大津駐屯地において、夏休みちびっこ大会を支援した。

参加したのは駐屯地近傍の唐崎スポーツ少年団野球部の児童二十九名及び滋賀学区内の児童七名と父兄を含めた計四十三名が参加し、自衛隊ならではの、基本教練体験、ほふく体験、ロープ体験、飯ごう炊事、装備品展示見学、体験試乗、



基本教練



飯ごう炊事

ミニ制服着用・南極の水体験等の各種体験を行い、夏休みの一時を過ごした。担当した第三二五共通教育中隊の要員は、積極かつ献身的に対応し、参加した児童及び父兄には大変好評であった。

体験を通して、児童達は、「自衛隊の人は皆優しく、本当に楽しかった。お世話をしてくれた方への感謝の言葉、また参加したい」と口々に感想を述べ、自衛隊に対する良い印象と感謝の気持ちを表す内容になっており、今大会における参加者の自衛隊に対する理解と親近感の醸成に大きく貢献した。

第一一〇教育大隊

◆大隊持続走競技会

第一一〇教育大隊（大隊長 品川善邦二佐）は、平成二十三年七月二十七日善通寺駐屯地において、大隊持続走競技会を「基幹要員の持続走能力の向上を促し、士気の高揚及び団結の強化を図るとともに、団持続走競技会連覇に向けての準備能力を確立する」を目的として実施した。

開会式において品川大隊長は、競技会に向けての隊員への決意として、「中隊の名誉」及び「個人の誇りをかけて」の二点を要望した。

各中隊は「優勝」を勝ち取るため日々練成した成果を十二分に発揮し、スタートからゴールまで全精力を傾注して、中隊の名誉をかけて戦った。

その結果、第三一七共通教育中隊が第三三二共通教育中隊の四連覇を阻止して見事「優勝」を飾った。第二位に第三三三共通教育中隊、連覇を狙った第三三二共通教育中隊は第三位に終わった。

大隊は、九月二十九日に実施される団持続走競技会に向け、大隊長以下基幹要員が一丸となって、大隊の総力を挙げて「二連覇」を達成することを決意した。



品川大隊長の号音で
スタートを切る

第一一〇教育大隊は、平成二十三年七月二十三日、善通寺駐屯地において、隊員家族向けオリエンテーションを「二十三年度前期異動者及び新婚者等」に対して自衛隊の仕事内容や職場環境等に対する理解の促進を図り、併せて隊員家族の自衛隊及び部隊に対する信頼感の醸成を図る。」を目的として実施した。

当初、大隊長室において、品川大隊長から「大隊の現況」、「善通寺駐屯地周辺の情報等」についてブリーフィングを実施して、その後善通寺祭りに合わせて駐屯地で行われた花火大会を大隊長はじめ隊員家族とともに観覧及び歓談をして懇親を図った。

駐屯地に来隊した隊員家族は、駐屯地の各種設備等及びご主人、お父さんの職場を実際に確かめることができ、自衛隊に対してなお一層の理解を得るとともに大きく打ちあがる花火に魅了され、充実した一時を過ごした。

◆隊員家族向け

オリエンテーション



家族へのブリーフィング

隊員家族投稿

「自衛官の妻として」

第四十七普通科連隊 第二中隊

岡本二曹夫人 岡本亜弥



主人は、自衛官として、訓練や体力作りに励み、演習や災害派遣など精神的にも体力的にもかなり厳しい日々を送っています。

この三月十一日の東日本大震災では全国の自衛隊の方達が災害派遣として東北に入り、人命救助をはじめ瓦礫の撤去、食事、風呂などの提供をしている様子をテレビで見っていました。とても悲惨な状況の中、自衛隊の方達が団結して東北の人達を助け、時間をかけて作業している姿を見て本当に頭が下がる思いでいっぱいになりました。被災されたお子さん達が自衛隊の方達の活動を目の当たりにして「将来自分も自衛隊に入って苦しんでいる人達を助けたい。」と言っているそうです。世の中の役に立ちたいと気持ちで思っていますが、今回の震災で自衛官としての責任を持ち被災地で活動した主人を自衛官の妻として誇りに思います。

「自衛隊の訓練見学に行つて」

第四陸曹教育隊 普通科中隊

光田一曹長男 光田来輝

今日は、サッカーの練習試合があったけど、僕は見学に行きたかったので、友達を誘って行きました。

トラックの後ろに乗って演習場に行く途中に、シカを見ました。どんどん山の中に入って行つてドキドキしました。鉄のヘルメットがとても重く、ぐちゃぐちゃの道を歩くのに、ヘルメットがフラフラしました。大砲の音がうるさくすぐく遠くまで飛んで行きびっくりしました。双眼鏡で弾の落ちる場所を見せてもらいました。

お昼から戦車を使った訓練を見ました。葉っぱをいっぱい付けて顔に色を塗った人があちこちから出て来て戦車の後ろを一生懸命走つて攻撃していました。でも僕は迫力のある戦車に夢中でした。

デッサカイヘビを触ったり、戦車の前で写真を撮ったりして日頃は出来ない体験が出来てとても良かったです。



一番左、来輝君

「自衛官の妻になつて」

第一〇九教育大隊

第三一六共通教育中隊

井上三曹夫人 井上由紀

私は六月末に入籍をし、七月から大津駐屯地がある大津市に大阪から来ました。結婚してから思う事は、主人が毎朝五時に起きて走つたり、仕事で、きついメニューをこなしているのを見ていて自衛官は体力もそうだし精神面も強くないといけない過酷な仕事だと近くで見えていて強く感じます。また、仕事を毎日頑張っているのを見て私が出来た事は、栄養面を考えた食事を作る事や休養などをさせてあげ、家でホッとできるような明るい家庭にしていけるよう努力していきたいと思ひます。



第一期

ツバメ候補生課程に三羽入隊



銘板上にツバメが巣を作る

第一〇九教育大隊の玄關上部に設置している部隊銘板上にツバメが巣を作り、かわいいう新隊員たる三羽を基幹隊員たる親鳥が食事教育により元気に育てあげました。

親鳥がこの巣の作成を開始したのが、我が大隊が担当した第四期一般陸曹候補生課程三百九十二名の修了式当日の六月二十九日で、これは、ツバメが我々の新隊員との別れの悲しみを理解し、代わりに私たちの子供を育てると巣を作ってくれたのだと思います。

この第一期ツバメ候補生課程の三羽は、八月十五日に本課程を卒業して、後期課程ならぬ「成鳥」課程へと旅立ちました。が、今後も毎年この巣で卵を産んで育ててもらいたいので、この巣を大隊のシンボルとして永久保全することにしました。